災　害　医　療

【単位数：0.5単位，授業9コマ（定期試験含まず）】
当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1　科目責任者

津田雅庸　教授（災害医療研究センター）

2　教育目標

（１）　ねらい（Ⅴ-８-ｂ）

① コンピテンスである“地域社会への貢献”の理解ができるようになるため，災害医療における秘本的な考え方，有事の災害医療対応について学び，そのことによって“多職種と連携して組織的に活動するための理論と実践的知識を修得する。

② 日本は世界有数の災害大国であり，医師はいかなる専門分野に進もうとも，発災時には地域医療のリーダーとしての役割が求められる。本講義では，平時の救急医療と災害医療の根本的な違い（需給バランスの崩壊）を認識し，医師として幅広い知識の修得を目標とする。

（２）　学修目標

① 平時の医療から，資源の制約下で全体の救命率を最大化する災害医療への思考切り替えを学ぶ。
② Command & Control，Safety，Communication といったマネジメントの重要性を学ぶ。
③ 発災直後の超急性期から，復興期における公衆衛生対応など，時間経過に伴う医療ニーズの変化を俯瞰する。
④ DMAT（災害派遣医療チーム）の役割，構成，活動内容について概説できる。
⑤ 災害対策基本法，災害救助法など，災害医療に関わる基本的な法体系を理解する。
⑥ トリアージの目的と倫理的側面を理解し，一次・二次トリアージの手順を実践（シミュレーション）できる。
⑦ 傷病者の分散搬送（Staging Care Unit: SCU の機能含む）の仕組みを説明できる。
⑧ 避難所などにおける衛生管理，感染症対策について説明できる。
⑨ 病院における防災訓練の概要と意義について理解する。

3　成績の判定・評価

（１）　総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
防災訓練参加	○	59%	大学の防災訓練に参加することを必須とする。防災訓練の概要を理解し，参加し，得られた知識について翌日レポートを作成する。
レポート提出	○	41%	訓練翌日の講義中に適宜，個人又はグループでのワークを行う。その際配付された用紙に各自・各班のワーク結果を記載して，終了時にレポートとして提出する。 【再評価について】 評価が59点以下の場合は，再評価の機会が与えられる。科目責任者へ問合せすること。

出席：　単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）　合格基準

評価対象の合計が60％以上（又は60点以上）で合格とする。

（３）　再試験・再評価の方法

止むを得ない事情で防災訓練に参加できなかったものは追加のレポート提出で参加したとみなす。

（４） 課題（試験やレポート）へのフィードバック

防災訓練の振り返りを含め，翌日の講義で解説を行う。

４ 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

５ 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
改訂第 2 版 DMAT 標準テキスト	日本集団災害医学会監修	へるす出版	DMAT 隊員のみならず，災害に携わるさまざまな職種に災害医療の基本知識，手技やDMATとの連携が理解できる。
救急診療指針 改訂第5版	日本救急医学会監修	へるす出版	災害医療と密接に関係する救急全般に関し必要な事項が網羅されている。
外傷初期診察ガイドライン 改訂第6版	日本外傷学会，日本救急医学会監修	へるす出版	災害医療と密接に関係する外傷に関するABCが記載されており，わかりやすい。

６ 準備学習（予習・復習）

授業に臨むにあたり，参考図書などを用い予備知識を得ておくことが望ましい（1 コマあたり 0.5 時間）。

７ 授業計画

（１） 講義の方法

防災訓練への参加と基大教室での知識伝達型の講義を行う。

（２） 講義の内容

防災訓練の振り返りを含め，講義形式で行う。講義内容は，災害医療全般についての知識や実災害活動などの講義を行う。